戸籍の窓

うぶごえ（4月届）

新生児名	保護者名	地区
（3月生まれ）		
健杜（けんと）	竹部　公栄	川根町3丁目
さくら	塚野　成一	茜ケ丘
沙羅（さら）	髙橋　佳幸	茜ケ丘
結生（ゆい）	長谷川隆志	茜ケ丘
（4月生まれ）		
優（ゆう）	吉田　真樹	茜ケ丘
瑠菜（るな）	米木　直也	東町2丁目
龍之介（りゅうのすけ）	田村　哲明	いぶき野2丁目
朔（さく）	吉澤　和弘	茜ケ丘
美桜（みら）	茅原　忠則	中央1丁目

およろこび（4月届）

新郎 新婦		地区
小野	和浩 恵美	いぶき野1丁目
石井	健一 政栄	東町1丁目
横山	昌人 晴子	中央6丁目
渡邊	昌克 麻衣子	川根町4丁目
川口	信久 嘉代	茜ケ丘
遠藤	隆 未来	二本木4丁目
太田	秀生 園美	いぶき野1丁目

おくやみ（4月届）

故人	年齢	地区
渡邉　三伊	90	東町1丁目
小熊　襄	63	木津1丁目
塚野　シン	93	横雲の里
山田キヨヱ	76	二本木4丁目
木村　浩	64	うぐいす2丁目
笠原　新藏	72	川根町1丁目
羽田ヨシヱ	90	東町2丁目
伊藤ミノリ	99	沢海1丁目
小林　一磨	83	二本木4丁目
佐藤　留作	69	東町2丁目
五十嵐チヨ	78	上町3丁目
村木　健市	76	横雲の里

※氏名は、常用漢字を使用していますので、戸籍上の字体と異なる場合があります。掲載を希望されない方は、届出の際に、町民生活課窓口までお申し出ください。

人口の動き

（カッコ内の数字は前月比）

人口	11,500人（−18）		
男	5,676人（−11）		
女	5,824人（−7）		
転入	44人	転出	59人
出生	10人	死亡	13人
世帯数	3,338世帯（±0）		

平成16年4月末

■心配ごと相談■

日頃の心配ごと、悩みごとなどの相談をお受けします。相談は無料で、秘密は固く守られます。

▶相談日時　毎月第2・4月曜日　午後1時〜4時
6月28日(月)に開催。
▶会場　老人福祉センター（役場となり）
▶問い合わせ　町社会福祉協議会　☎385−4321

■行政相談■

▶相談日　毎月第1月曜日　午後1時〜4時
7月5日(月)に開催。
▶会場　老人福祉センター
▶相談員　行政相談員　坪谷孝司
▶問い合わせ　総務課　☎385−2111

心配ごと相談の6月の1回目、行政相談の6月分については、6月1日の合同相談と同時に開催したため、開催日が一部変更になりました。

■なんでも相談■

▶日時　6月20日(日)　午前9時〜午後4時
▶会場　役場町長室

■地域のお茶の間■

▶日時　6月28日(月)　午前10時に老人福祉センター出発。
▶会場　朱鷺メッセ（春の遠足）
▶申込　町社会福祉協議会　☎385−4321

■6月の納税等（納期限は6月30日）■

町県民税……第1期　国民健康保険税……第2期
介護保険料……第2期

税金等の口座振替を希望される方は、納期月の前月末までに手続きをしてください。

詳しくは、役場町民税課へお問い合わせください。手続きが遅れた場合は、次の納期からの振替となります。

救急車出動状況

（）は平成16年1月以降の累計

◆4月の出動状況　17（95）

主な出動原因	交通事故	2（11）	急病	8（60）
火災	1（1）	一般負傷	3（12）	その他	3（11）

交通事故発生件数（平成16年4月末　累計は平成16年1月分から）

発生件数（件）			死者数（人）			傷者数（人）		
4月	累計	前年比	4月	累計	前年比	4月	累計	前年比
5	24	+5	0	0	±0	6	28	−1

税金を　正しく使って　豊かな未来　（五十嵐　賢人）

横越町のあんだ道を覗いてみよう

横越歴史探訪④

長年治水に取り組み、水害を乗り越え、肥沃な地域に発展した亀田郷

水害に悩まされた亀田郷

横越町の歴史は、有史以来、水と闘い、水を治める歴史であったとも言えます。大正2年の「木津切れ」の際にも、亀田郷一帯が水浸しとなり、大きな被害が出ています。明治時代、阿賀野川の流路が大きく蛇行し、沢海の集落の東方には約1・5㎞も河川敷が広がり、その大半が桑畑で占められていました。

阿賀野川沿いの沢海地区などは海抜6・0〜6・5m余りですが、川根町地区や藤山・駒込地区の低いところでは海抜1・5m余りと、亀田郷は低地が多い地域でした。

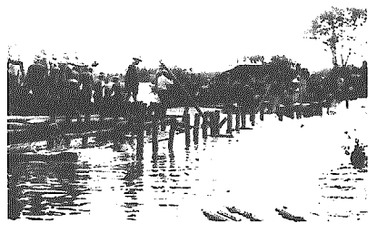
そのため、中世以来、この地域に定住してきた人々は、阿賀野川の洪水と、それに伴う小阿賀野川の氾濫や堤防の決壊で被害を受けてきました。江戸時代になると被害は大きくなり、明治以降も大洪水と堤防決壊で、悲惨な水害に悩まされてきました。信濃川と阿賀野川の治水事業と亀田郷の排水事業の完成（1950年代）までは、水との戦いの連続でした。

特に、大正2年の木津切れの被害はとても大きく、賀茂神社の下手から240m余りの幅で小阿賀野川の堤防が切れてしまいました。

この木津切れで、水戸口の集落では家が20軒ほど流され、残った家はたったの3軒、死者は3人、馬も4頭死んで大変な騒ぎとなり、悲惨極まる水害でした。流されたり水につかった家の人たちは小学校や近くのお寺に仮住いしました。また、ちょうど稲が実ったところだったので、米の収穫の被害も大きかったようです。

さらに、横雲橋の中央部も流失。この時の水害では、中越、下越、佐渡郡にも被害が及び、亀田郷内の低地で排水の良くない地域はすべて水没しました。

表1にある大きな被害のあった水害のほかにも、河川の増水、氾濫で小規模の被害はしばしば起きていました。



大正2年の木津切れ直後の水戸留め工事。亀田郷内各地の人々が救援に駆けつけた。

表1　横越村の水害（約100年間の主なもの）

明治29年	木津切れ（堤防決壊54m）
大正2年	木津切れ（堤防決壊244m）・横雲橋一部流失
大正6年	曽川切れ（横越の一部を除き亀田郷水没）
大正15年	木津地区の阿賀用水路破堤
昭和6年	大雨で川根谷内の耕地水没、木津地区農民と水争い
昭和16年	横雲橋流失
昭和22年	横雲橋流失
昭和33年	横雲橋一部流失
昭和53年	6・26水害
平成10年	8・4水害

阿賀野川大改修

大正時代に行われた阿賀野川改修工事は、河川の水害を防ぐため、五泉市馬下（まおろし）から河口までの約40㎞の川幅、中州を整理し、曲流蛇行している沢海の部分を直線にしようとする大工事でした。

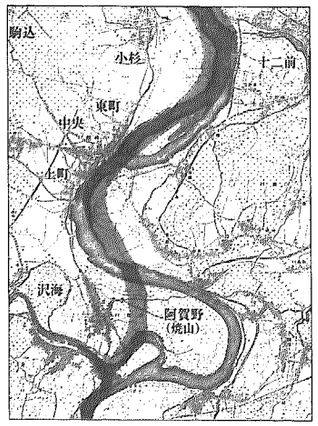
大正6年から昭和9年にかけて阿賀野川の大改修工事が進められ、沢海地区を大きく蛇行していた阿賀野川を直線化しました。

沢海では、300町歩余りの耕地が三分され、100町歩は河川敷になり、川の対岸となった焼山の80町歩余りは飛び地、本村はわずか100町歩余りに分かれることになり、焼山への移転者は19軒となりました。沢海で、焼山地区に耕地を多く持つ人たちにとって、耕作のために朝昼晩と川を越えることは不便であり、危険でしたが、小学生と耕作者は、沢海と焼山の間を渡し舟で通いました。他の地区の人々も、木橋の横雲橋が洪水で流失するたびに、渡し舟を利用しました。

沢海床固めや満願寺閘門（こうもん）も、この際作られた治水施設です。その結果、洪水による被害も少なくなったものの、昭和33年の洪水の際にも、横雲橋が流出する被害が起きています。その後、昭和40年代にかけて堤防のかさ上げ工事が実施されました。

さらに、平成10年の8・4水害の教訓を受けて、現在、小阿賀野川の堤防の補強工事が行われています。

阿賀野川改修工事や小阿賀野川の堤防工事、亀田郷の排水機能が強化されたことなどにより、亀田郷一帯は、今や肥沃な農地が広がる豊かな地域となりました。



阿賀野川改修前の地図（明治44年測図）。当時の阿賀野川は大きく蛇行していました。あみかけ部分は現在の河川です。